

# インドスタリをしのぶ

戦後、最大の種牡馬インドスタリが、10月16日、日高スタリオンステーションで、横隔膜破裂のため死亡した。すでに、この馬の競走成績・血統・産駒などについては、をつくされているので、関係の深かった諸氏に、インドスタリの思い出を語っていただいた。

## 初のシンジケート種牡馬



酒井 徳松  
(酒井牧場主)

インドスタリを輸入したのは、昭和30年ですが、実はその前から種牡馬を輸入したいと話合っていたのです。結局、その年は適当な馬がいなかったので、翌年になってしまいました。

あのとき、インドスタリのほかに、ダービー優勝のストレイトデイルという話もありましたが、私としては血統的にインドスタリの方がいいと思いました。インドスタリは千二百万円ということでしたが、当時は種牡馬が少なく、成績はなくても血統がいい馬がいたら、なんとかそういう馬をもう一頭ぐらい欲しいと思っていました。そうしたら、千ギニー優勝馬フェスツーンの弟のブツフラリーがいて、四百万円ならいいということでした。しかし、こちらには予算がない。それで交渉した結果、二頭で日高着の千三百五十万円がきまりました。

ポアルセルはセントサイモンによく似ているが、インドスタリもセントサイモンに似ています。とくに首つきのあたりがよく似ているので、私はこうしてセントサイモンとインドスタリの写真を並べて貼っているのです。

インドスタリは、最初のシンジケート種牡馬でしたから、株をもってもらうのに随分苦労しました。それというのも、その当時はシンジケートで馬をもつ習慣がなかったからで、はじめ、もってくれそうな人でも、いざとなるとなかなかもってくれませんでした。また、その頃は、いまと違って生産者も苦しい時代でしたからね。それで会長だった富岡さんは二株、副会長の私も二株、また鎌田牧場、大塚さ



富岡 清巳  
(富岡牧場主)

## 晩年もよい仔出す

二株ずつもってくれたのですが、まだ足りないで、亡くなった吉川英治さんにもお願いして、ようやく四十株にしたのです。しかし、あれが先鞭になって、その後はシンジケートの種牡馬がどんどん入るようになりました。

あれだけの功労馬ですから、剥製にして競馬会に引き取っていただこうと、みんなで相談したのですが、それとは別に馬像をつくりたいと考えています。それには、奉賀帳を回して基金を集めるようなことはせずに、新聞、雑誌にその趣旨をのせ、広く一般から基金を募集したいと考えています。

インドスタリは、うちの親父と、登録協会の石塚さんとが買って買ってきたのです。二人とも今は故人となってしまうので、直接購買の模様を聞くことはできなくなりました。入ってきたときはブツフラリーの方が先にダービーを取るぞ、といったもので、実際、ブツフラリーのコダマの方が先にダービーの優勝を得たわけですが、そうしたことは別として、インドスタリを歩かせてみて、その歩様のいいのには感心しました。

ちょうど死ぬ一日前に、ある調教師が来て、百万円だから、なんとか来年の種付け権が得られないものか、といいつつ帰ったのですが、こんな事故が起ころとは考えてもいませんでした。あの日、具合が悪いと聞いて、朝八時ごろ駈けつけたのですが、宇毛さんがみてくれていたので大丈夫だろうと思っていました。二十三歳といっても、まだまだ馬は若かったのですから、来年も四十頭間違いなしとみられ

前で体高一五八、胸囲一八七、管囲二〇・五ありました。

種付けは牝馬を警戒するようなどころはありましたが、それでも二〇分も三〇分もかかるといふ馬ではなく、それも乗れば一発でできました。来年も充分四〇頭はつけられると思っていただけに、残念というほかありません。あれだけの成績をあげる馬は、これからはなかなか出ないでしょう。

## 話のわかった馬



三好 春松  
(種馬管理主任)

インドスタリに死なれて、家族に先立たれたように力が抜けてしまいました。なにしろ十年も一緒に

暮らして来たのですから……せめて、もう一、二年生きてもらいたかった。

死ぬ前の晩、私のところに客があつて、夜遅くまで話し込んでくれました。いつもなら、夜飼いをやるのですが、その日は雨でパドックにも放さなかつたので、運動の足りないあとで食わしたのでは、腹痛でもおこしてはいけないと思い、そのまま寝てしまいました。あの馬は、ほかの馬と違って、夜食わせなければならぬ馬でした。そうでないと栄養がとれないのです。そのために、夜十一時でも十二時でも起きて面倒をみました。私はゼンク持ちなので、寒いときなど随分つらいこともありましたが、可愛いインドスタリのためなら、苦労が苦勞でありませんでした。

インドスタリは、特別おとなしい馬のようにみられていましたが、ただ、おとなしい馬ではありませんでした。非常に頭のいい馬でした。だから、いったんツムジを曲げたら、手のつけられないようなところがあつた。しかし、話せばわかるのです。始終そばにいて話しかけてやれば、こちらのいうこ

ていたのです。ほんとに惜しい馬を失ったものです。日本のリーディング・サイアーは、シアンモアにしても、セフト、クモハタ、プリメロにしても、老令になると、さすがに成績が落ちましたけど、インドスタリにかぎっては、年はとつても一向に成績は悪くなりません。ことしもチャンピオン・サイアーは、まず間違いないでしょうし、ことしの三歳もいいのがそろっています。うちのブルボンも北海道三歳ステークスの優勝をしているので、先を楽しみにしています。ハイペリオンは晩年に至るまで好成績をあげ、文字どおり名種牡馬の名をほしいままにしたのですが、インドスタリも同様だと思います。インドスタリの死で、われわれも反省しなければいけないと思いました。スタリオンステーションにも、組合にも種牡馬管理委員がいるのですから、委員たちは直接の担当者だけに責任を負わせるようなことをしないで、十日に一度、月に少なくとも一、二回は直接種牡馬の顔をみて、どんな様子かぐらいを把握しているべきですよ。大きくいえば、インドスタリの死は国家的損失です。

## 最後まで眼の玉光る



宇毛 功  
(日高スタリオン長)

あの日、インドスタリの具合が悪いから見てくれといわれ、最初に行ったときは疝痛かと思つたのです。ところが聴診をしてみたらとてもいけません。すぐ横隔膜破裂だとわかりました。時間の問題だとは思いましたが、獣医がなにもしないわけにもいかないで、リングル六千ccぐらい打ちました。一時それでも落ち着いて、草を鼻先でついたりしていましたが、食べはしませんでした。でも食べようという意志はあつたのです。とにかく偉い馬で、眼の玉が死ぬまで光っていました。大抵の馬なら死が近づいて来ると、眼が死んだ眼になってしまふのですがね。そして朝の六時から午後四時に死ぬまでずっと立ったままでした。そして、倒れた直後に息を引取つたのです。

インドスタリのよさは心臓のよさだと思えます。やはり、あれだけ胸囲のある馬は、心臓もよいし、肺もよい、そして食いもいいということになる。それは馬学的にもそういうものではないですか。死ぬ

とがよくわかるのです。

最近、ツナギがゆるくなってしまつて、運動もほとんどできませんでしたが、乗り運動をしていたときは、あの馬の気持ちのとおり乗らないと機嫌が悪いのです。ですから、一里の道を往復したこともありますけど、ほとんど汗をかかないのです。心臓、肺臓の実にいい馬だったと思います。

種付けはちょっとむずかしいところのある馬でした。これは私の想像ですが、向こうで種牡馬生活をしていたとき、なにか事故があつたのではないかと思ふのです。そうでなければ、あれほど牝馬を警戒することはなかつたでしょう。私も扱っているうちに、だんだんコツがわかつてきて、はじめは四分、五分とかかかっていたのが、時間もかからなくなりましたし、うまくもって行けば、若馬よりも種付けはよかつたくらいです。

一度、種付けシーズンがはじまつたばかりのとき滑って倒れ腰を痛めたことがありました。あれは三七、八年のころだったと思います。萩伏の種馬所にいたときでした。種付け開始期で、雪がかなり残っていました。いまなら、ブルで押せば簡単に除雪できるのですが、当時は人手でやったのだから、なかなか完全な除雪はできませんし、残った雪がとけて凍るので、非常に危険な状態でした。それでバラスを入れてくれといったのですが、ほかの種付所ではバラスなんか敷かないでも、ちゃんとやっている、という返事でした。ほかの種付所は海に近い、ところが萩伏は奥だから雪の量が違うのです。仕方がなくて、ムシロを敷いて種付けをはじめたのですが、最初のときだから、馬が喜んで立って歩いて滑ってしまったのです。幸い大したことはなく、しばらく休んだだけで済みましたが、あのときは胆を冷やしました。事故といえば、そのときぐらいのものでした。

あの馬の特徴の一つは、九月になると毛がほとんど伸びることです。あまり長く伸びるので、みてくれが悪く、来春の種付けができるのかと疑われるくらいでした。しかし、一月になると毛が抜けだし、三月のころにはサラブレッドらしい皮膚の薄さになっているのです。あの冬を越す準備の仕方はほかの馬ではみられないことでした。

私は、いつも馬と話をしながら扱ってきましたがインドスタリは私がそばに行くと、それはそれは喜んで、手入れのときなど、舌を出して気持ちよさを示していました。ほんとうに、かわいそうなお手つかない馬です。

## インドスタリの種牡馬成績

年	順位	勝馬	勝鞍	賞金	主な産駒
昭和34年	22	12	22	5,610,000	タイアン, ヤマニンスター
35年	4	37	87	31,517,500	ヤマニンモアー, ハクシヨウ
36年	1	55	109	67,310,000	ハクシヨウ, ヤマニンモアー, スギヒメ, シンツバメ
37年	1	65	155	89,230,000	オーハヤブサ, ケンホウ, トウコン
38年	1	64	149	95,200,000	リュウフオーレル, ゴウカイ, シンカツフジ
39年	1	52	128	140,307,850	シンザン, ヤマトキヨウダイ, ヒカルポーラ, ウメノチカラ
40年	1	47	103	119,225,300	シンザン, ダイコーター, ミハルカス
41年	2	48	96	103,885,900	リュウフアーロス, エイトクラウン
42年	1	54	109	123,100,000	タマクイン, アカツキノボル, アサカオー
43年	1	42	71	138,963,900	リュウフアーロス, アサカオー, ブラックパト

(注: 43年は9月末現在)

賞	種	付	種	付	種	付	種	付
(ダービー)	ハクシヨウ, シンザン	(オークス)	オーハヤブサ					
(皐月賞)	シンツバメ, シンザン	(天皇賞)	ヤマニンモアー, リュウフオーレル, ヒカルポーラ, ヤマトキヨウダイ, シンザン					
(菊花賞)	シンザン, ダイコーター	(有馬記念)	リュウフオーレル, ヤマトキヨウダイ, シンザン					
(桜花賞)	スギヒメ, ケンホウ							

## インドスタリの種付頭数並産駒数

年	種付頭数	産駒数	年	種付頭数	産駒数	年	種付頭数	産駒数
31	47	143	36	55	136	41	45	107
32	54	123	37	43	91	42	40	77
33	64	160	38	51	112	43	40	88
34	50	134	39	45	87	計	頭	頭
35	52	121	40	51	106		637	1,485